

■■■ 2017年度KFC総会報告 ■■■

KFCの2017年度総会を5月27日に開催しました。

総会に先だち、例年同様、KFCの全体学習会として「外国につながる幼児のルーツ表出の様相」というテーマで、全体学習会を行いました。トヨタ国際助成プログラムのジュニアコーディネーターとして今年4月からKFCに来ており、神奈川で外国ルーツの子どもの支援活動を続けている宮脇英理から話をしてもらいました。

神奈川の外国につながる幼児の参与観察からの修士論文をもとにした話は、4歳や5歳でも私たちの社会における多数者と少数者の関係が子どもの価値に影響することや同じルーツをもつ大人が子どものいる場所（保育園）に関わることで自らのルーツを肯定的に捉えるような言動が表出されるといった興味深い内容でした。

外国ルーツの子どもの幼児期の話聞いていて、同じ年齢期の日本人の子どもは、どのように「日本」や「日本人」を捉えているのか、また保育園や幼稚園で大人たちは、「日本」や「日本人」を伝えているかが問われているかとも考えました。

日本の教室では、当たり前のように「私たち日本人は・・・」等が使われています。また研究の世界でも度々「我が国では・・・」という表現も使われています。どちらの表現も自分たちの世界に外国人、外国ルーツの人がいないという表現ですが、あまり気にされずに使われ続けています。しかしその場にいることやその研究を共有しなければいけない日本人以外から考えれば、思慮に欠く表現です。

私たちの社会は、もう少し日本人以外の存在を意識した上で「日本」、「日本人」、「外国」、「外国人」を語る、語れる場になったほうが、居心地がいいのではないかと考えます。総会は、2016年度の報告、決算を行い、KFCが結成20年のつどいを盛大に開催できたこと、事業の決算規模が過去最大であったことなどが報告されました。

続いて役員改選が行われ前年度理事・監事全員が留任することとなりました。

事業計画においては、KFCのあゆみのなかで人が人と共生するために大切なこととして実感している「差別をなくし、機会をつくり、葛藤があっても隣の椅子を空（開）ける営み」に今後も取り組んでいくこと、またKFCの実績を活かした他地域への支援、次世代へのKFC事業の継承への取り組みを確認しました。

支出予算は、KFC職員の待遇改善を踏まえ人件費を増加させた結果、過去最も大きい予算となりました。

最後に法人事業として福祉有償運送事業開始や介護保険法改正に伴う介護予防・日常生活支援総合事業への取り組み、また現在では使われていない事業用語の変更に対応するため、定款の変更が提起され承認されました。

総会時に話しましたが、KFCは近年、国の機関、自治体、財団、大学などから大きい評価、信頼を社会から得ていると感じるようになりました。

会員、支援者、利用者、スタッフ、関係者すべての人の力の賜物だと思います。

愚直なKFCの活動をいつも支えていただき、ありがとうございます。今年度も胸を張れるような事業を進めていければと考えています。

(理事長 金 宣 吉)

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆コーディネーターになって

日本語ボランティアを始めて早5年半となりますが、私は他教室での経験がなく、KFCにおいても活動のほとんどが水曜クラスでのものです。今までは前任の方のリーダーシップと知識に寄りかかって学習支援を行っていました。そのような私にコーディネーターを、というお話があった時、言っていたことに「ありがたいな」、と感じると同時に、「務まるだろうか」という大きな不安を感じました。実際始めてから3か月、まだまだ分からないことだらけで頼りない進行です。しかし水曜クラスの持ち味は家庭的な温かい雰囲気。ボランティアのみならず学習者の皆さんにも支えられ、事務所の方々のご協力のもとなんとか毎週進めています。やればやるほど日本語を学ぶことの難しさ、奥深さを感じていますが、今のクラスの良さを生かしながら少しでも学習者の方々が生活しやすくなるような授業を、また学習の意欲がわくような教室づくりをしていきたいと思っています。 (吉井 朋子)

◆2つの研修会に参加して

「漢字学習支援の基礎」の研修会が6月25日に行われました。

KFCの漢字学習帳作成グループの方が今回作成された「筆運びで学ぶ たのしい漢字帳」の特徴の紹介を受けながら、参加者も実際に筆ペンを持ち、筆運びを体験しました。筆運びを練習することで共通する字を学ぶことができるというものでした。

私を含め、参加者の方々は日頃外国人に漢字を教える際にいろいろ悩みを抱えております。特に非漢字圏の学習者には、約2000字(N1レベル)の漢字を学ぶには様々な困難があります。また教える側もテキストは沢山あるものの統一された教授法が無く悩みを抱えてしまうのではないのでしょうか？例えば、書き順は大切か？止め、ハネ、払いは必要か？どのように教えたらわかりやすいか？覚えるにはどうしたらいいのか？漢字は書けなくても読めるだけで良いのでは？アプリの活用も良いのでは？

参加者たちの悩みや意見は尽きませんでした。その話し合いをすることによって学習者への支援を進めていく上でよい機会になったと思いました。

また、7月5日に「日本語コーディネーター研修」が兵庫県国際交流協会日本語推進員の遠藤知佐さんを講師に招き、行われました。

日本語クラスを運営するコーディネーターとは「異なる人をつなげ、調整し、新たなハーモニーを創造していく人」という役割であり、日頃の日本語クラスでは「交流・学習・生活上の行動支援」という3つの方向性で教室運営を行っていくという内容の研修でした。

また、今回研修を受けて再認識したのは、ある参加者の方から「KFCは駅から近く、教室の教材や設備面も費用面でも恵まれ、学習者にとって『何の心配もなく来られる場所』」という言葉でした。

私は水曜日の生活日本語クラスのボランティアの立場として今回参加しましたが、これからは、ソフト面でも『何の心配もなく来られる場所』をコーディネーター、他のボランティアの方々や学習者と共に目指していければと感じました。 (片岡 育子)

■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆外国につながる幼児のルーツ表出の様相—2つの保育園のエスノグラフィー—

4月からKFCでジュニアコーディネーターとして携わっている宮脇英理です。私は、日中越（日本・中国・ベトナム）にルーツがあり、神奈川県の一ちょう団地を拠点に「NPO法人外国人支援ネットワークすたんどばいみー」で外国人支援を行ってきました。

今回、私はKFCで修士論文「外国につながる幼児のルーツ表出の様相—2つの保育園のエスノグラフィ—」の発表をしました。題名を見て、「幼児の段階でルーツ？」と思われるかもしれませんが、私はすたんどばいみーの外国につながる幼児が自身のルーツを「日本です」と言うことに違和感があり、幼児の段階でルーツをどのように理解しているのかを明らかにしたいと思ったのが研究のきっかけでした。

そこで、私は研究で神奈川県横浜市における2つの保育園でフィールドワークをしました。ここでは、外国につながる4歳児と5歳児のルーツの表出の様相を捉えつつ、それに伴うルーツ理解について明らかにすることを目的としました。ルーツの表出は、ルーツに関わることや、母語（継承語）を話したときとし、それらのことを中心に取り上げました。

研究を行った結果、外国につながる幼児のルーツ表出とルーツ理解は、多様なパターンの表出と理解、そして解釈が行われていたことを明らかにすることが出来ました。まず、明らかになったことの1つめに、4歳児と5歳児では、ルーツの表出とルーツの理解に違いが見られたということです。4歳児の外国につながる子どものルーツ表出は、「する」場合と、「しない」場合があります。ただし、「する」場合でも、ルーツ理解には多様なパターンのルーツ理解が存在していました。さらに、面白いことに4歳児のルーツの理解は、子どもの母語（継承語）との獲得が大きく影響していたのです。

そして2つめに、5歳児になると、ルーツの表明や理解は急速に進むようになり、4歳児でみられたパターンは1つに収斂され、話せる言語とのつながりを基準として、ルーツ表出をするのが一般的になっていました。この過程においても、母語（継承語）を獲得しているかどうかは重要で、外国にルーツがあるものの日本語しか理解できない5歳児は、自らのルーツ表出は「日本」ということになっていました。そして、5歳児段階では自身のみならず、他者のルーツの理解をしていました。

これらの結果から、外国につながる幼児のルーツの表出には、母語（継承言語）の獲得は極めて重要であるということが明らかになりました。そして、ルーツの表出を促す要因としては、ルーツ国への帰国経験、母語（継承語）のみの生活環境、保育士の働きかけがあることが明らかになりました。

この研究で得られた最大の知見としては、ハーフの子どもにはルーツ理解の複雑さに向う多様な過程があったということ、そして、5歳児において既に「肌の色」に嫌悪感を持ったことによってルーツを否定的に捉える子どもがいたということと、自身のルーツ理解を促す環境が整わなく、自らのルーツを理解するきっかけをもたないことによって、日本や日本人に同化する傾向がある子どもがいたということでした。

この研究の結果を踏まえて、外国につながる幼児のルーツの理解がどのようなかという知見を得ることができ、「幼児段階から必要な支援は何か」を考える示唆になりました。これらの知見を持って、外国につながる子どもの保護者や支援者に発信をしています。(宮脇 英理)

■■■ 八ナの会 ■■■

◆春の遠足

毎年恒例の遠足、天気が良かったのもあり、利用者達の意見を伺った結果、外で食事をしたい、景色を楽しみたいという希望があり、6月13日、14日に神戸市立須磨離宮公園、15日に神

戸市立森林植物園へ遠足に行きました。

高齢であること、一人暮らしであるということ、足腰が弱いということもあって一人でそういった遠足をするのは困難です。

ですから、今回のデイサービスの遠足はほとんどの方が楽しみにされていました。他の料理を楽しみたい、外食をしたいという利用者たちの願いで、外でご飯を食べました。登りの道がいくつかあったこともあり、休憩を取りながら、その合間にグループで歌を歌い、思い出に残る遠足になってほしい、楽しんでもらいたいと私達デイサービススタッフは願い、充実した1日になるよう頑張りました。この散歩のあとは、休憩をとりつつ次から次へと歌を歌い、そしてその合間におやつ時間をとりました。楽しい時間を過ごしてもらい、みなさんはお疲れのようでしたが、何人かは通常の生活にまた戻るのがいやで、解散を悲しむ人もいました。みんな、思い出に残る充実した1日を楽しめました。（塚本 澄子）

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆神戸まつり

4月末頃からKFC帰国者事業のコーディネーターとして担当することになった季穎(き えい)と申します。私は日本に来て15年になり、去年まで会社員として働いていましたが、仕事と家庭の両立が難しく、退職しました。現在は2児の母として主婦をしながら、仕事を少しずつ再開しています。

私が帰国者事業の担当になって早や2ヶ月が経ちました。少しずつ帰国者の方達の名前と顔を覚えられるようになりました。最初は不安でしたが、みんなが優しく接してくれたおかげで、緊張や不安が消えました。多くの帰国者は私の親と同年代でとても親近感を感じています。交流会の時はまるで中国に居るようで、大勢の親戚に囲まれるような温かく懐かしい気持ちになります。交流活動は日本語学習だけではなく、農園体験、祭り出演、料理教室など楽しいイベントが企画されています。育児疲れ気味の私はみんなが積極的にいきいきと活動されているのを見て、気分転換もでき、元気ももらっています。

私の家族はお祭りが大好きで、神戸祭りを毎年欠かさず見に行っています。今年は帰国者が花舞台上でヤンガと広場踊りで出演することを知り、初めて出演側のスタッフの一員として参加することができるので本当に誇らしく嬉しかったです。本番に向けてみんなは汗まみれになりながら一生懸命ダンス練習を重ねてきて、心から応援したくなりました。

神戸祭り当日は天気が良く、三宮エリアは大勢の人が若葉の清々しい公園の中で、立派な花舞台にいました。出演される帰国者たちは沢山の観客を前にして、緊張で少々強張った顔つきの方もおられましたが、踊りだすとみんな自然と笑顔になり、自信満々で楽しそうでした。声援することしかできないですが、感動と嬉しさで胸がいっぱいになりました。賑やかで華やかな中国特有な伝統踊りヤンガと広場踊りはまさにお祭りにふさわしいもので、観客を魅了していました。来年の神戸祭りの出演も楽しみにになりました。

私は帰国者のコーディネーターとしてまだ不慣れなところがありますが、できる限りみんなをサポートしながら、楽しく参加できるように交流会やイベントなど手伝わせて頂きたいと思えます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。（季 穎）

■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護八ナ ■■■

◆外出レク

外出（遠足）するにはいい気候となりましたが、果たして何処に行けばいいのかと思案しまし

た。車椅子でも利用できるトイレのある所、しんどくなった時に座る場所がある所等、やはり高齢者の方々と行く場所はどこでもいい訳ではありません。今年神戸港開港150周年ということもあり、どこかでイベントをしているのではないかとインターネットで検索をしました。そこで、北区大沢町にあるフルーツフラワーパークで神戸モンキーズ劇場が無料で開放している事を知りました。いわゆる猿回しです。演技時間はどれくらいなのか？車椅子で入れるトイレはあるのか？座る場所はあるのか？はインターネットでは判らなくて一足お先に猿回しを見に行きました。約20分間の演技だったのですがとても感動しましたし、園内ではお花が綺麗に咲いていて、トイレも綺麗。ベンチもある。何より空気がいい。これは是非とも一緒に行きたいと思場所を決定しました。2F・3Fともにスタッフの調整を行ったのですが、片道1時間の距離が故に途中で急変してもと困ると思っていた所に、快く看護師の巽さんがボランティアで同行して下さいました。

気持ち良い風が吹いている広場でお弁当を食べて猿回しのある神戸モンキーズ劇場へ移動しました。熱心に手を叩きながら見ている利用者さん。普段ホームでは見たことのない笑顔も見る事が出来ました。翌日に利用者さんに「昨日猿回しを見た事を覚えていますか？」と尋ねると「高い竹馬に乗っていたのがよかった」「お猿さんが可愛かった」としっかりと覚えていて下さる方もいましたが、「どこも行っていない」と不思議そうな表情を見せておられる方もいらっしゃいました。そこで「車に乗ったでしょう。そしておにぎりいっぱい食べたでしょう」と言うと「そう言えば心地よい風が吹いていたね」と言っておられました。猿回しや草花などの視覚に関する事は覚えていないのですが、『心地よい風』という感情は認知症が進行しても残るのだと認識する事が出来ました。お猿さんや草花を覚えていなくても『心地よい風』を覚えていて下さっただけでも外出レクを行った意義があったと思います。（星野 敬子）

■■■ 今後の予定 ■■■

■「多文化共生」を考える研修会2017

8月21日（月）「総論」

8月23日（水）「外国にルーツを持つ子どもの教育」

8月25日（金）「多様性を理解するために必要なこととは」

8月28日（月）「海外・日本の移民と国民の状況」

■KFC帰国者新長田交流会

7月21日(金) 介護予防教室 みなく～る明舞

7月25日(火) 農業体験

■KFCみんなのダイニング

8月4日(土) 16:00～20:30「映画でナイト」

■日本語ボランティア養成講座（全9回）

10月8日(日)～12月3日(日) 13:30～16:30